

### 【中・長期的取り組み】

#### ○ 淡路に自生する植物の活用促進のための供給体制づくり

- ・淡路に自生する植物を活用した緑花を推進するためには容易に入手できることが必要ですが、現在、淡路に自生する植物は市場で流通していないため地域住民等の需要を高めることで、将来的には市場での供給体制の確立を目指します。当初は行政が主導して緑花関連機関と連携しながら淡路に自生する植物の供給体制づくりに取り組み、軌道に乗った段階で、行政が土地の仲介役になるなど、緑花グループなどが淡路に自生する植物の苗を育成できる制度や体制を整えます。

### ② 自然体験を通じて子どもを育てる

緑花活動は、地域に根ざした活動であり、取り組みやすさから誰でも参加できる活動でもあります。また、自然を対象とした活動であることから、子どもの環境学習にも最適で、自然と親しみ、地域への愛着を高める良いきっかけになります。また、一年草でも種子を取り、次の苗を種から育てる工夫を行うと、命の尊さを実感することができます。

### 【短期的取り組み】

#### ○ 緑花学習教室の開催

- ・総合学習の時間を利用して、児童や生徒を対象とした緑花学習教室を開催して、自分達が住んでいる淡路島をよく知り、命の大切さを学びます。
- ・単なる植栽活動だけではなく、種子の採取、種の植えつけ、育成管理など花の一生を通じて参加することで、自然の成り立ちを感じ、学ぶことができる取り組みにします。
- ・また、自然への愛着や造詣をより深めるため、堆肥づくりへの参加や周辺の里山から取ってきた自然の物を使った緑花の資材づくりなど、自然とのつながりを意識した教室を開催します。
- ・これらの学習を進める際には、保護者や地域(PTCA)も一緒に参加するなど、地域で子どもを見守る意識を高め、防犯体制のしっかりした安全安心なまちづくりにもつなげていきます。

#### ○ 里山づくりや地域の自然環境とのふれあいの取り組みの実施

- ・子どもたちが地域の里山づくりや地域の自然環境にふれる取り組みを実施します。

#### ■ 幼稚園で園児と緑花活動

幼稚園で子どもと一緒に花植えを行っています。

(湊幼稚園ほか)



園児による花壇づくり

#### ■ 子どもによる里山づくり

里山づくりで子どもの居場所(遊び場所)をつくる活動を行っています。

(AGN西淡ほか)



小中学生の里山づくり体験

- ・淡路市楠本では、自宅の庭をプレーパーク「淡路島・冒険の森」として子ども達に開放し、自由に自然を体験できる取組みを行っています。

#### ■淡路の自然を守り育てる計画「論鶴羽山系総合プラン」

淡路の論鶴羽山系には、貴重な自然が残されています。人と自然が共生する自然環境の保全と創造を進めるため、論鶴羽自然体験プログラムを作成し、「学びの森ゾーン」を設け、森林を身近に感じてもらうため、野生のキノコの観察等の取組みを行っています。

### ③ 環境に配慮した資源循環型緑花の推進

一年草などの1回使い切りの花苗などを用いるとゴミを増加させ、環境が悪化する原因にもなってしまいますので、緑花活動が環境に負荷を与える活動にならないように配慮しながら緑花活動を行う必要があります。つみ取られた花殻を利用して堆肥の作成など行うと、環境への配慮と同時に資材の購入が不要になるなど持続可能な緑花への一歩にもなります。

#### 【短期的取組み】

##### ○ ゴミは出さない、次につなげる堆肥づくりの推進

- ・刈り取られた剪定枝や花殻等は捨てずに堆肥づくりを行う等、有効に利用することを進めます。堆肥は、次の花壇へと利用することができます。
- ・堆肥づくりのためのスペースを確保することが必要です。

##### ○ 食品残さなどを利用した堆肥の利用推進

- ・企業や病院、学校等で出された食品残さを堆肥化し、花壇に用いる循環型の資源利用を推進します。

#### 【中・長期的取組み】

##### ○ 土のリサイクルの推進

- ・一度使った土のリサイクルを進めます。リサイクルの方法をパンフレット等で紹介します。

■地元企業による堆肥の配布  
企業が作成した肥料を無償で緑花グループに配布されています。(三洋電機)



三洋電機で堆肥の配布の様子

#### ④ 緑花活動を環境保全・地域保全につなげる

緑花活動を通じて花や緑を植栽することは、二酸化炭素の吸収など地球温暖化防止等の環境を保全する取り組みにもつながります。また、棚田やため池など農業の衰退とともに利用されなくなり、減少しつつある貴重な資源に再度光を当てることも可能です。さらに、緑花活動は、日頃の地域の管理活動でもあり、緑花活動のついでに地域の見回りを行うなど地域の保全も意識することが可能です。

##### 【短期的取り組み】

#### ○ 菜の花エコプロジェクトの推進

- ・菜の花エコプロジェクトの一環として、天ぷら油を作り学校給食等に使用し、さらに廃食用油をBDF化し農作業用のトラクターに用いるなど循環型の取り組みを検討します。

##### ■ 菜の花エコプロジェクトの推進



鳥飼浦県道の菜の花

菜の花などから作った油を利用した後の廃食用油を回収し、軽油代替燃料(BDF)を精製する資源循環型の取組み「菜の花エコプロジェクト」をより一層推進するため、休耕田を活用した子どもたち参加型の「菜の花の種まき」や「収穫祭」を実施し、子どもたちに緑花活動の喜びや資源循環型の取組みを実体験してもらう。

#### ○ 水田や棚田、ため池等の畦畔法面の景観植物の植栽の推進

- ・淡路は地形が急峻なところが多く棚田が今でも残されています。また、水の少ない淡路には農業用のため池が数多くあります。これらは、淡路らしい景観を作っている一要素であるとともに生物の貴重なすみかにもなっています。しかし、農業が衰退するなかで、棚田は放棄され荒廃し、ため池も埋め立てられ減少しています。水田や棚田、ため池を守っていくために、景観植物を植栽することで淡路らしい風景を守り、貴重な資源の価値を再認識させる取り組みを検討します。

■ワークショップの意見（畦畔のり面への景観植物の植栽と立体的な景観形成）

全島的に棚田が多く、雑草管理に苦労している。草刈りが省力できる草丈の低い、花の美しいグランドカバーを植栽することにより、農家の省力化を図ってはどうか？

- (1) 雑草化させないため種子の出来ない宿根草を利用
- (2) 花が美しく、できれば花期の長いものいがあればなおよし
- (3) 農作業管理のため滑らないもの

○ 休耕田の活用推進

・ 淡路地域でも今後休耕田は増えることが想定されます。休耕田において景観作物を植える、苗圃場とするなどして活用を図ります。

■遊休農地を花苗育成に活用するためには・・・

- ガラスハウスのような大がかりな建物を建てて作業する場合  
⇒ 農地転用が必要です。利用主体が法人格であること。
- ビニールハウスのような簡易ですくに撤去できる場合  
⇒ 農地転用は不要です。

【中・長期的取り組み】

○ 緑花活動を淡路に自生する植物保全の取り組みにつなげる

・ 淡路は、四方を海に囲まれ、豊かな自然を有していることから、淡路特有の動植物が多数生息・生育しています。なかでも里山や海浜、ため池、湿地などにおいては希少種化が進みつつあります。これら淡路に自生する植物は、みんなで理解し、守っていかねなければならないため、保全や保護の手法について検討します。

■ワークショップの意見（ササユリの復活）

以前は、全島至るところにササユリが咲きほこり、芳香を放っていたが、現在はほとんど見る事ができない。ササユリに限らず、観賞価値の高かった“シャクナゲ”“エビネ”“シュンラン”等がもともと見られた地区で、整備復元を住民主体で取り組んではいかがでしょうか？

■ニュージーランド クライストチャーチに自生する植物を使った花壇づくり

約 160 年前にイギリスからの入植者がイングリッシュガーデンを始め、多くのガーデンコンテスト等を通じて、花々が咲き乱れる美しい景観として有名になりました。しかし、1980 年代頃から「ニュージーランドはイギリスではない」と、自分たちのアイデンティティを求める声が高まり、元々ニュージーランドに生えていた植物を使った花壇づくりをしようという動きが起きてきています。華やかな花は行政に任せ、できるだけ時間もかけずにファッションブルに自生する植物を使った花壇づくりが行われています。

■景観植物の植栽

休耕田を活用し、コスモスやヒマワリなどを植えて行き交う人の目を楽しませています。



コスモスの植栽(淡路市)

■淡路に自生する植物の保全

三熊山では、自然愛好家で作る「淡路島の自然を学ぶ会」が、希少植物を集めた「淡路島野生植物保護園」を設置し、淡路に自生する植物保護に取り組んでいます。



野生動物保護園(洲本市)

## ○ 二酸化炭素吸収のための駐車場緑化等の推進

- ・市街地においては、施設の屋上や壁面などの建物緑化、グラウンドの芝生化、駐車場の緑化（グラスパーキング）を進めることで、地球温暖化やヒートアイランド現象にも寄与する取り組みを検討します。

### ■ 駐車場の緑化（グラスパーキング）

駐車場をアスファルト舗装から、芝生等で緑化することによって、ヒートアイランド対策や気温上昇抑制することができます。



## ○ 里山放置林の管理と街角の花壇づくりなどをつなげる

- ・里山の放置林や竹林は、ほとんどが管理されず土砂止めの力が弱まるなど、災害の危険性が高くなっています。今後、山林については、山林から出てきた木材などを地域の花壇で活用するなど利用を推進し、山の整備へとつなげることを検討します。
- ・淡路らしい景観を作りだしているウバメガシ林などの里山で切り出した木材、竹材などを活用し、花壇の柵に使用するなど自然の循環利用について検討します。

## ○ バイオマスエネルギー活用のしくみづくり

- ・バイオマスエネルギーの活用を検討します。まずは、公共工事などで切られた木や街路樹の剪定枝等のチップ化や植え替えられた一年草の堆肥化などリサイクルのしくみを作ります。

## ⑤ 緑花活動を景観づくりにつなげる

緑花活動を通じて花や緑を植栽することは、沿道や河川の景観を良くし、その結果、地域の風景へとつながっていきます。河川の沿道や視認性の高い斜面地、休耕田など人の目につきやすい場所においては、特に地域の景観や風景づくりを意識しながら緑花活動を行います。

### 【短期的取り組み】

#### ○ 河川沿道などに桜や低花木などで修景する

- ・ 淡路では淡路市のコスモス街道が有名ですが、地域住民による桜並木を創出する取り組みも行われています。また、南あわじ市でもツバキ街道の実現に向けての取り組みも行われているなど、道路や河川沿道の一定距離を、管理者と協議して重点的に花木や花で修景し、新しい景観を創出することでまちづくりに役立てようとする動きがあります。

#### ■ 桜並木で河川沿道の修景

旧五色町のまちおこし協議会が、奥所川河岸で、過去10年以上にわたり、桜並木づくりに取り組んでいます。  
(鳥飼まちおこし協議会)



桜並木の様子(洲本市)

#### ○ 視認性の高い斜面を緑花して景観向上につなげる

- ・ 公共工事などの残地の中には造成後に人工的に緑花されたもののうまく育たず枯れてしまったところがあります。身近な場所で規模の小さい法面については、管理者と地域住民グループが連携して再生できる可能性があります。

#### ■ 視認性の高い斜面地の緑花修景

淡路市の緑花グループが、法面の一部を購入し、緑花修景に取り組んでいます。  
(花でまちづくり協会)



斜面地の緑花(淡路市)

### 【中・長期的取り組み】

#### ○ 花や実の美しい楽しみのある果樹を活用した耕作放棄田の修景

- ・ 淡路の耕作放棄田の増加率は他地域と比べて高くなっています。特に淡路市では放棄田をコスモス畑に変えてまちおこしを図る取り組みを行っていますが、“花”も“実”もあり“紅葉”もある果樹を活用した取り組みも検討する必要があります。

## (2) 人と人のつながり

これまで淡路の緑花活動は団体がそれぞれ個別で取り組んでおり、お互いに情報交換を行ったり、グループを越えて人手を出し合って進めるといった機会があまりありませんでした。このため活動の主体であるグループのリーダーの役割を担っている人に負担がかかっていたり、参加メンバーの固定化、高齢化、男性の参加者が少ないなど、人手不足や経費の負担などで緑花活動が継続しないなどの課題を抱えていました。

今後は、島でまとまろうという力を利用して、グループを越えて情報を交換し、必要な場合は人手や資材を出し合って助け合うしくみなどをつくり、緑花活動の持続性を高めていくことが望めます。

また、花や緑という題材は、手軽で扱いやすい上、癒しや心を和ませる機能を持ち、人と人の気持ちの壁、年齢の壁、地域の壁を取り除くなど、人と人を結びつけユニバーサルな社会を築く効果も期待できます。

### ① 人手不足を解消するため人材をつなげる

淡路の緑花活動は、団体数は増えていますが、個々の活動では高齢化、メンバーの固定化等の課題を含んでいます。これまで緑花活動に関わってきた人材や新たな人材を発掘・育成し、人材を将来に向けてつなげる取り組みを行います。

#### 【短期的取り組み】

- 生きがいつくりの場として緑花活動への参加を促す取り組み
  - ・緑花グループが自立した活動を実践していくために、行政の補助事業をうまく活用することも大事な手段となってきますが、そのための書類申請は多くのグループが苦手としているところです。また、最近の補助事業ではプレゼンテーション能力を求められるケースも増えています。緑花の知識を持たなくても、緑花グループが必要とする人材を、社会の第一線を退いて時間的余裕が出来た世代から引き込む取り組みを検討します。
  
- 地元の各種学校との連携
  - ・これまでも県立淡路景観園芸学校の学生が、地域の緑花グループの協力を得て、まちづくり計画を策定したり、県立淡路高校

の生徒が県の“花のある道づくり事業”にボランティア参加して、沿道プランターへの花植えを実施したりしています。また、関西看護医療大学の開設も今後予定されていることから、民・学・官の連携が望まれます。

### 【中・長期的取り組み】

#### ○ あわじ緑花エコマネーの運用

- ・花の植え替え時期など人手不足が予測される時期に、お互いに助け合うため、独自の通貨を発行し、緑花に関してのサービスと交換できるエコマネー制度について検討します。

#### ○ 緑花人材バンクのしくみづくり

- ・緑花活動だけに限らず、堆肥づくりや日曜大工、園芸療法、絵画・写真撮影、フラワーアレンジメントなど多様な技術を含めて人材を募集し登録紹介するしくみづくりを検討します。情報発信の一翼にもなり、いろいろな技術を集積することでより幅の広がった活動ができることとなります。

#### ○ 組織の運営、コーディネートする人材育成講習会の開催

- ・緑花活動は、何人かでグループをつくり組織として活動を行う場合が多く、組織を運営するマネジメント力や、人と人をつなぐコーディネーターが活動の継続に重要な役割を果たします。そのためマネジメントやコーディネーターとして活躍できる人材の育成のための講習会の開催が必要になっています。
- ・県立淡路景観園芸学校が開催する人材育成の講習会を積極的に利用します。

#### ■ 県立淡路景観園芸学校のガーデナーテーマコースのテーマ

これまで実施されてきたテーマは、植栽活動にとどまらず多岐に渡っています。

##### (テーマ例)

- ・身近な公園の活用に向けて
- ・オープンガーデンをデザインする
- ・果樹・庭木・盆栽の手入れ技術
- ・植物栽培の基礎
- ・庭のデザイン
- ・新しいライフスタイルの庭づくり
- ・コミュニティガーデンをつくろう
- ・福祉とみどりのまちづくり
- ・園芸療法と園芸福祉
- ・里山保全活動に向けて、研修
- ・竹林の維持管理と手法取得
- ・ピオトープづくりと自然観察
- ・環境教育の実践に向けて
- ・ワークショップの達人になろう

#### ■ 高校生による緑花活動

行政から委託を受けて淡路高校で育てられたのじぎくなどの花苗が全島に定着しつつあります。(県立淡路高校)



高校生によるプランター緑花

#### ■ 写真愛好家の技術と緑花活動をつなげる

写真の愛好家が撮った写真を使って、オープンガーデンの絵はがきにしています。このように、直接緑花でなくともいろいろな活躍の場があります。(あわじオープンガーデン実行委員会)



オープンガーデンの絵はがき



## ② 緑花で全島をつなげる場づくり

活動は人の口コミで広がっていくことも大きな要素です。お互いに日頃考えていることや情報を交換する場づくりを行います。こうすることで、他の活動を知ることができ、自分達の活動を見直すことができる上、ニーズ（欲しいモノ）とシーズ（資源）のマッチングにより活動の継続性が高まります。

### 【短期的取り組み】

#### ○ 「緑花フォーラム」の開催

- ・地域住民、行政、緑花関連機関が一体となって、全島的な「緑花フォーラム」を年1回開催し、淡路の緑花の方向性などの意見交換を行います。

#### ○ 緑花コンテスト、コンクールの開催

- ・これまでの「花と緑のコンクール」などコンテストについては、参加者が固定化している傾向があることから、プロセス重視型の審査を行ったり、表彰を受けた人やグループが次回の審査員になるなど次の活動につながるような工夫を行います。
- ・また、道路周辺などの景観向上を図るため、今後は“道路から見た評価”という視点を取り入れます。

### 【中・長期的取り組み】

#### ○ 全島一斉の緑花イベントの実施

- ・淡路では年に2回春と秋に、全島一斉清掃の日が設けられており、その日には地域住民が協力して清掃を行っています。例えば「花と緑の日」のようなものを設けて、その日には家の前に花緑を植えた鉢を置いたり、全島一斉の緑花イベントを企画することを検討します。

#### ○ 淡路に自生する植物を取り入れた花壇コンテストの開催

- ・手間暇がかからない淡路に自生する植物を利用した花壇の推進と、その美しさを島内外に広く周知させるために、淡路に自生する植物を利用した花壇コンテストを全国に先駆けて開催します。審査の際は花壇の美しさだけでなく、いかに管理の負担が少ないかという視点を取入れます。

#### ■花づくり交流会の開催

全島の各地域から緑花グループが参加する花づくり交流会を開催しています。

(淡路県民局)



交流会の様子

#### ■花を使った祭りの開催

コスモス祭りを開催するなど、花を村おこしの起爆剤にしています。(草香むらおこし実行委員会)



コスモスまつりの開催(淡路市)

### ○「花づくりリーダー交流会」の開催

- ・他県や県内他地域の緑花グループが集う緑花交流会を開催します。地域を越えて意見や先進的事例などの役立つ情報を交換します。

## ③ 緑花の癒し効果を活用し、人と人との交流を深める

花や緑が持つ元気なイメージや癒しの効果を活かし、福祉の面からの活用を図ります。また従来はつながりの薄かった社会福祉施設等の庭での緑花を通して、地域住民と施設入所者がふれあう機会をつくります。

### 【短期的取り組み】

#### ○ 日常の緑花活動を福祉につなげる

- ・過度の負担を伴わずに緑花活動を福祉につなげることも少しの工夫で可能となります。例えば、花壇の見頃の時期に花壇の一面にテーブルと椅子を設置し、老人介護施設等にダイレクトメール等で案内する、それだけでも施設の方が遠慮なく花壇を観賞できる手助けとなります。

#### ○ 施設での緑花と福祉の推進

- ・地域にある社会福祉施設等の庭を緑花活動の拠点とすることで、施設入所者と地域とのふれあいや心の安らぎを得ます。また 地域の福祉施設と連携し、園芸療法を実施します。その際には、県立淡路景観園芸学校が連携して行います。

### 【中・長期的取り組み】

#### ○ 緑花活動を通じての世代間交流の促進

- ・学校の総合学習の時間などを利用し、高齢者福祉施設などでの緑花活動や、学校に高齢者が出前講座として緑花の楽しさを教えることで、世代間の交流を図ります。

#### ○ 島外からの緑花体験希望者の受け入れのしくみづくり

- ・緑花先進地である淡路で緑花を学ぶため、島外からの希望者を募り、研修生として受け入れるしくみづくりを検討します。
- ・エコツーリズムの取り組みと連携し、淡路への旅行行程に緑花活動体験を組み入れ、撤いた種が開花する頃に再び淡路島を訪れてもらえるようなしくみを検討します。

#### ■ 緑花と福祉の連携

病院等の緑花を行うことで施設入所者が花や緑で癒され、また交流の場となるように、園芸福祉に取り組んでいます。（県立淡路景観園芸学校の受講生など）



聖隷淡路病院での緑花活動

#### ④ 淡路から全国へ～淡路らしい緑花の発信～

淡路は島である地域特性を活かし、島内で力を合わせて1つのことに取り組み、全国に発信していくことが可能です。平成14年度から開催されているあわじオープンガーデンは、ガーデナーとそこを訪れた人々が、花をテーマに交流を図るきっかけとなり、地域住民の緑花創作意欲の向上につながっています。

また、全島で緑花の活動を盛り上げていくためには、緑花プランの目標と基本方針を地域住民に浸透させるための効果的な情報発信・PR活動が必要です。

#### 【短期的取り組み】

##### ○ 花いっぱい美しい島に向けた修景緑花の推進

- ・平成18年度に開催されるのじぎく兵庫国体に向けた緑花を行います。(ルートについては参考資料P60参照のこと)
- ・平成19年度以降も活動の気運を保ちながら、花いっぱいの美しい島に向けた修景緑花を推進します。

##### ■オンリー1「ふるさとの顔」づくりの取り組み

兵庫県ではH18の国体開催を契機に、「ありがとう心から・ひょうごから」をスローガンに、もてなしの心あふれる景観形成を図るため「花と緑あふれる美しい県土づくりアクションプログラム」を策定し、オンリー1「ふるさとの顔」づくりの取り組みとして様々な事業を展開しています。

##### 〔淡路地域の取り組み〕

- ・美しいなぎさモデルロードの整備(淡路市)
- ・あわじ花さじきロードの整備(淡路市・南あわじ市)
- ・美はらし広場の整備(南あわじ市)
- ・足元花かざりモデル路線の整備、緑の道しるへの整備
- ・瀬戸内なぎさ回廊づくり

##### ○「春は菜の花、秋はコスモス」などのキャッチフレーズによる全島的な緑花活動の推進

- ・花博記念事業協会やNPOあわじ緑花協会等が打ち出している「春は菜の花、秋はコスモス」というキャッチフレーズを活かしながら、全島的な活動を推進していきます。

##### ○ オープンガーデンの活動充実

- ・花と緑のまちづくりに関心のある緑花グループのリーダーが、全島レベルで協力し、「あわじオープンガーデン」を自分達の活

##### ■コスモスで駅伝を飾る

淡路の女子駅伝をコスモスで飾って、PRを行っています。(NPOあわじ緑花協会)



コスモスで駅伝コースを飾る

動として意識することが望まれます。

- ・そのためには、開催に際し、各地域のリーダーや庭主からの企画の提案や、より良いものを作り上げていくための研修の実施、研修結果の実行などが必要となります。
- ・また、春や秋だけの単発的なイベントにとどまらず、最終的には四季を通じてのオープンガーデンを目指します。
- ・さらに、オープンガーデンのお客様を淡路島の観光へと導くためにも、オープンガーデンのガイドマップとともに観光パンフレットなどをあわせて配布するなど観光連盟等との連携を図ります。

### ○ 情報発信の窓口をつくる

- ・観光連盟等と協力して情報の一元化のための窓口をつくり、緑花グループ等からの情報を集約し、花の名所や開花時期、オープンガーデンなどのイベントおよび緑花グループの活動内容を情報紙やホームページなどでタイムリーかつ定期的に発信します。
- ・活動紹介の内容は、地域のトップランナーが取り組んでいることや工夫していることなどを紹介し、活動の輪を広げようとしている人やこれから活動しようとする人にとって参考になるように“活動に込める思いや生の声”を掲載します。

### 【中・長期的取り組み】

#### ○ 地域ごとの淡路のシンボルフラワーの選定

- ・菜の花やコスモスの一斉開花に加え、淡路に自生する植物を使った「地域ごとのシンボルフラワー」を選定し、花壇に加える取り組みを検討します。

#### ○ 淡路緑花C I※計画づくり

- ・「淡路の魅力再発見」で行った風土工学的手法による調査等を参考にしながら「淡路らしい緑花」を明確にし、キャッチフレーズ化と浸透しやすいロゴ・マーク、看板サイン等のデザイン、全島でのイベント計画、広報計画を盛り込んだC I計画を作成し、効果的に発信していきます。
- ・C I計画に基づき、オープンガーデン等の活動や花卉づくり産業との連携による取り組み等を発信することで、観光地への集客力

#### ■あわじオープンガーデン!

オープンガーデンを開催し、花づくり、庭づくりの素晴らしさをPRにしています。  
(あわじオープンガーデン実行委員会)



オープンガーデンの取り組み

#### ■情報発信ツールの作成

機関誌を発行し、活動を内外にPRしています。(花づくりネットワーク西淡)



ニュースレター

#### ※CIとは

もとは corporate identity の略で、企業イメージ等を大衆に知らせることだが、地域づくりでは、まちのイメージづくりの意として一般的に用いられている。